



園芸

Point

梨の早めの摘果作業を心掛けて 果実肥大を促しましょう

今月
営
ポイ



男鹿地区営農センター 佐々木 花萌

今年度につきましては、品種問わず結実が良好であるため、成らせすぎに留意して摘果作業を進めましょう。

作業スケジュール

品種	6月		7月	8月	9月
幸水	粗摘果	仕上げ摘果	見直し摘果		収穫
	新梢管理				

●粗摘果

残す果実 …… 「果軸が長い」「果形が整っている」「大きい」「軸折れ、傷がつく危険性がない位置」「果そう葉が多い」「傷や障害がみられない」

摘果すべき果実 …… 「主枝・亜主枝に直接ついている果そう」「側枝先端部の2~3果そう」「葉のない果そう」「着果位置の悪い果実」「病虫害による被害果」「降霜や降雹の被害果」

粗摘果は、1果そう1果にしていく作業ですが、摘果作業の中でも最も多く果実を落とす作業になりますので、**果実肥大**に大きく関わってきます。また、今年度は昨年と同様に降霜や低温もありましたが、生産者の皆様の霜対策や複数回の授粉により、結実は品種問わず良好ですので、**満開後30日**を目標に、早めに作業を進めましょう。

●仕上げ摘果

仕上げ摘果は、もちろん肥大にも影響しますが、特に**果実糖度**に影響する作業になります。おいしい梨を収穫するために**満開後50日まで**を目標に、果形や大きさ、着果位置、障害の有無などを考慮しながら、確実に大玉になるような果実を残しましょう。豊水については変形果が発生しやすいため、数回に分けて果形を見極めながら摘果するのが望ましいです。

病虫害防除

萎縮病により葉が萎縮して黒変する症状が平年より多く見受けられます。症状がみられるものは菌が入ってしまっており治ることはなく、今後葉数が増えてくると症状がわからなくなる場合が多いため、見つけた場合はせん去し、切り口を塗布剤で保護してください(枝枯れも同様に対応してください)。

●黒星病

本年の黒星病の子のう胞子飛散開始、発病ともに、平年に比べやや遅いといった状況でした。しかし、6月に入り、降雨に伴って胞子が飛散して二次伝染が続くため、発病の増加が懸念されます。各自圃場を観察し、耕種的防除や定期的な薬剤防除に努めましょう。薬剤防除では、「オキシラン水和剤」や「オーソサイド水和剤」、「ベルコート水和剤」などの防除剤を、10日間隔で散布してください。発病の多い圃場の場合は7日間隔の散布をしましょう。また、散布予定日が降雨と重なる場合は散布を早め、降雨の前に散布を行ってください。

●アブラムシ、カメムシ

今年度は開花前から気温が高く推移しているため、虫の活動がやや早い状況です。各自圃場を定期的に確認しましょう。